

拝啓

貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度弊社では「インテグレートビジネスシミュレーション フォーラム 2013」を12月10日(火)に東京大学伊藤国際学術研究センター(東京・文京区)にて開催する運びとなり、是非皆様にご来場いただきたく、ご案内申し上げます。

おかげさまで弊社は、今年で創業20周年を迎えることができました。これを記念して今回は、テーマを「『未来を構想するテクノロジー』～経営理論とITの活用による中長期の成長実現～」とし、基調講演に、慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別招聘教授 夏野剛氏をお迎えします。夏野氏は、NTTドコモのiモード成功の立役者として世界的にその名を知られるとともに、IT革命がもたらす未来への洞察、その未来における企業の在り方、リーダーの在り方に関する著作・講演活動を積極的に進めておられます。夏野氏の講演は、新たな成長を追求する皆様への重要なヒントとなることと思います。

夏野氏の基調講演に続きまして、弊社システム・サービスを活用されている企業より、取り組みをご紹介いただきます。大阪ガス株式会社の投資評価部長 石田博巳氏には、大阪ガスグループの中長期ビジョンの達成に向けた事業投資評価の取り組みについてお話しいただきます。また、千寿製薬株式会社 事業戦略本部 経営企画室 大西美江氏には、不確実性の高い医薬品事業投資の判断に合理性かつ組織的納得解を得るための取り組みについてご紹介いただきます。

又、弊社ビジネスシミュレーションシステム「RadMap」の最新バージョン発表、及び、シミュレーションを活用した計画立案・意思決定のコンサルティング・研修を組み合わせたソリューションのご紹介を予定しております。

本フォーラムは、中長期の成長を目的とする事業投資の意思決定に関わるマネジメント及び経営スタッフの方々、事業の現場で各種計画の立案や検討業務に携わっていらっしゃる方々にとりまして、シミュレーションを活用した、より質の高い計画策定・意思決定の実現についてお考えいただく上で、大変有意義な機会になるものと考えます。ご多用中とは存じますが、関連部署の方々をお誘いあわせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

敬具

2013年10月吉日

インテグレート株式会社

代表取締役社長 小川 康

インテグラート ビジネスシミュレーション フォーラム2013

「未来を構想するテクノロジー」 ～経営理論とITの活用による中長期の成長実現～

【日 時】平成 25年 12月 10日(火) 13:30 ～ 17:30 (受付:13:00 より)

【場 所】東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール 東京・文京区

【申込方法】弊社ホームページより、又は別紙の登録申込書に必要事項をご記入の上FAXにてお申し込みください。定員になり次第、締め切らせていただきますのでお早めにお申し込みください。

【定 員】300名

【参加費用】無 料

【プログラム】

13:00 ～ 13:30 受付

13:30 ～ 13:45 ご挨拶

インテグラート株式会社
代表取締役社長
小川 康

13:45 ～ 14:35 基調講演
「IT時代に求められるリーダーの責任」

慶應義塾大学
政策・メディア研究科特別招聘教授
夏野 剛 氏

14:35 ～ 14:50 休憩

14:50 ～ 15:30 講演・事例紹介
「大阪ガスにおける投資評価の取り組み」

大阪ガス株式会社
投資評価部長
石田博巳 氏

15:30 ～ 16:10 講演・事例紹介
「千寿製薬における事業投資評価の取り組み」

千寿製薬株式会社
事業戦略本部経営企画室
大西美江 氏

16:10 ～ 16:25 休憩

16:25 ～ 17:20 講演・製品のご紹介
「未来を構想するテクノロジーのご紹介」
事業性評価・意思決定支援システム
「RadMap/project」新バージョンご紹介

インテグラート株式会社
取締役
井上 淳

17:30 閉会

■ 基調講演

「IT時代に求められるリーダーの責任」

夏野 剛 氏 慶應義塾大学
政策・メディア研究科 特別招聘教授



講演概要

IT革命がもたらす情報流通の高速化によって、経営環境の変化は加速している。変化出来ない企業は、もはや生き残ることが困難だ。今、リーダーは方向性を示し、しかも、ディテールを知らなければならぬ。知ることで未来を予測できる。そして、未来を予測できれば行動を変えることができる。だから、未来を理解することはリーダーの責任なのである。

講師紹介

早稲田大学政治経済学部卒業。米ペンシルベニア大学経営大学院ウォートンスクール修了(経営学修士)。NTTドコモに在職中に、榎啓一氏、松永真理氏らとiモードを立ち上げた。2005年ドコモ執行役員マルチメディアサービス部長。08年にドコモ退社。現在は慶應義塾大学政策メディア研究科特別招聘教授のほか、ドワンゴ、セガサミーホールディングス、ぴあ、トランスコスモス、GREE、トレンダーズの取締役を兼任。

■ 講演・事例紹介・製品紹介

講演・事例紹介「大阪ガスにおける投資評価の取り組み」

石田 博巳 氏 大阪ガス株式会社 投資評価部長

大阪ガスグループは長期経営ビジョンにもとづき、ビジネス拡大のための新規事業拡大投資を実施しています。本セミナーでは、その投資意思決定において行っている投資評価の概要についてご説明します(その評価に関してインテグラート社のシステムを利用)。参加者の皆様からご意見を賜われれば幸いです。

講演・事例紹介「千寿製薬における事業投資評価の取り組み」

大西 美江 氏 千寿製薬株式会社 事業戦略本部 経営企画室

千寿製薬では、開発段階での不確実性の高い医薬品事業投資の判断を合理性かつ組織的納得解を得るため、事業計画の立案と評価のプロセスを標準化しています。本セミナーでは、インテグラートのビジネスシミュレーションシステム「RadMap/project」「RadMap/portfolio」を活用したこれらのプロセス運用の取り組みをご紹介します。

講演・製品紹介:「未来を構想するテクノロジーのご紹介」

井上 淳 インテグラート株式会社 取締役 エグゼクティブコンサルタント

インテグラートは事業計画や戦略立案をICTを活用して効果的に進める未来予測のソリューションを提供しています。本講演では、個別プロジェクトの事業計画、複数プロジェクトの統合的な事業計画・戦略立案、Excelベースでの分析・シミュレーションの3つについて、ツールとプロフェッショナルサービス両面のソリューションをご紹介します。また、弊社ビジネスシミュレーションシステム「RadMap」の最新バージョンを発表いたします。

インテグラト ビジネスシミュレーション フォーラム2013
「未来を構想するテクノロジー」
 ～経営理論とITの活用による中長期の成長実現～

日時：平成25年12月10日(火)
 13:30～17:30(受付13:00～)

会場：東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 (赤門近く)
 TEL:03-5841-0779 (伊藤国際学術研究センター運営室)

交通のご案内

- ・本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線) 徒歩8分
- ・本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線) 徒歩6分
- ・湯島駅(地下鉄千代田線) 徒歩15分
- ・根津駅(地下鉄千代田線) 徒歩15分

下記の各駅からも、都営バス・学バスの便が
 ございます

- ・御茶ノ水駅(JR中央線、総武線)
- ・御徒町駅(JR山手線等)
- ・上野駅(JR山手線等)

伊藤国際学術研究センターホームページ
<http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/index.html>



登録申込書

■弊社ホームページまたはFAXにてお申込みください。

www.integratto.co.jp/bsf2013.html
FAX : 03-5212-5534

※全ての項目をご記載ください

貴社名			
ご住所	〒		
ご氏名			
所属・役職		E-mail	
TEL		FAX	
ご氏名			
所属・役職		E-mail	
TEL		FAX	

個人情報につきましては、インテグラト個人情報保護方針に則り、厳重に管理し、第三者への提供はいたしません。

お問合せ：ビジネスシミュレーションフォーラム事務局 TEL:03-5212-5533
 ホームページ：<http://www.integratto.co.jp> e-mail:radmap@integratto.co.jp

『企画力』と『意思決定力』を高める

経営理論 × ソフトウェアエンジニアリングの統合

インテグラトは 1990 年代から過去の延長ではない未来を実現するための経営理論を研究し、ビジネスの現場で誰でも簡単に活用できるソフトウェアを開発しました。

SBP (Simulation Based Planning) テクノロジーは、卓越した学術理論に基づく計画立案と意思決定を、ソフトウェアを活用したシミュレーションによって更に効果的に、かつ、簡単に実践可能にする、インテグラトの独自技術です。

Simulation Based Planning Technology SBPテクノロジー

仮説指向計画法

『Discovery-Driven Planning』理論

University of Pennsylvania Wharton School イアン・マクミラン教授

Columbia Business School リタ・マグラス教授



戦略意思決定手法

『Strategic Decision Management』理論

Stanford University ロナルド・ハワード教授



仮説に基づく
シミュレーションを
可能にする
ソフトウェア・
エンジニアリング。

- 入力データをダイナミック(可変)に扱い、What-Ifシミュレーションが驚くほど容易に
- 企画と意思決定のプロセスを考慮したソフトウェア設計
- 徹底的な可視化による情報共有の促進
- 反復・修正が容易なユーザーインターフェース

仮説指向計画法 Discovery-Driven Planning

ペンシルバニア大学ウォートンスクール教授イアン・マクミラン、コロンビアビジネススクール教授 リタ・マグラスが考案した不確実性の高い事業環境におけるビジネスプランニング手法。

「逆損益計算法」により、利益の因数分解と仮説の洗い出しを行い、「マイルストーン計画法」で仮説検証・修正を実行する。

戦略意思決定手法 Strategic Decision Management

1960年代に米国スタンフォード大学教授のロナルド・ハワードによって考案された、デシジョンアナリシスを基礎理論とする意思決定手法。シリコンバレーを本社とするコンサルティング会社ストラテジック・デシジョンズ・グループ(SDG)が実践・応用し、手法として確立。意思決定の品質(Decision Quality)を高めるアプローチを提供し、エネルギー開発会社、製薬会社、化学メーカーから導入が進展した。



プロジェクト事業性評価を部門や全社で標準化・一元管理。

- Software : RadMap/project
- Consulting : プロジェクト評価業務導入コンサルティング・サービス
- Education : 事業性評価研修プログラム

活用事例

経営陣と開発陣が、リスクとリターンを理解・共有。

- 背景 役員決裁が必要な開発投資に際しては、事業性が評価基準の一つとなっている。
- 課題 各現場では、当該事業分野の専門家は豊富なものの、事業性を考える人材が不足していた。
- 対策 本社スタッフが、社内コンサルタントの役割を担い、RadMap/projectを活用して、一貫した評価方法で事業性評価を実施するとともに、開発陣に事業性を改善するために必要な助言を行う体制を構築した。
- 効果 RadMap/projectを活用した可視化と分析シミュレーションによって、経営陣と開発陣の間でリスクとリターンが理解・共有されるようになった。導入当初は、開発を中止に追い込むための道具ではないかと開発陣に強く警戒されたものの、収益モデルやリスクの可視化が事業性の改善に役立つことが次第に理解され、開発陣から本社スタッフに相談が持ちかけられるようになった。



複数のプロジェクトを統合的・多面的に評価、資源配分を最適化する事業ポートフォリオ管理。

- Software : RadMap/portfolio
- Consulting : ポートフォリオ評価業務導入コンサルティング・サービス
- Education : ポートフォリオマネジメント研修プログラム

活用事例

経営陣と開発陣が、将来に亘る見通しを理解・共有。

- 背景 研究開発を利益の源泉と考え、積極的に研究開発に投資をしている。
- 課題 中期経営計画の期間を超えた取り組みは、現場任せになっており、長期的な見通しを定期的に確認する仕組みが存在しなかった。
- 対策 RadMap/portfolioを導入し、経営の視点から、推進されている製品開発・新規投資の全体像が可視化された。
- 効果 数年を要したが、経営陣の中長期の意思決定を効果的に支援する材料が次第に提供されるようになった。現在では、役員決裁案件は、ポートフォリオとして定期的にフォローアップを行い、中長期の業績予測と必要な経営リソースの見通しを共有するプロセスが運用されている。



定量分析・シミュレーションを活用した意思決定をExcelベースで実現。

- Software : デジジョンシェア
- Consulting : 戦略プランニング実践コンサルティング・サービス
- Education : 豊富な研修プログラムと、大学・ビジネススクール向け教材を提供

活用事例

定量分析を組織的に導入し、投資評価プロセスを刷新。

- 背景 事業領域を拡大する戦略を積極的に推進しており、従来の本業以外の稟議案件が増加してきた。
- 課題 決裁権限者に必要十分な説明を行にくい(わかりにくい)案件が続出し、事業リスクの検討不足が懸念された。
- 対策 「デジジョンシェア」を導入し、稟議案件に感度分析・リスク分析を必須とするように、投資評価プロセスを刷新した。あわせて、研修を幅広く(対象者を企画担当者に限定せず)実施し、社内の共通言語になるよう取り組みを進めた。
- 効果 稟議前に、現場における検討が深まるようになり、複雑で不確実な案件の説明と情報共有が改善しただけでなく、リスクの検討も進むようになった。

September 18, 2013

I extend my heartiest sincerest congratulations to Integratto Inc. on their twentieth anniversary.

Back in 1996, Dr. Takeru Ohe of Waseda University, one of my oldest friends, introduced Integratto to me. Since then, it has been truly my pleasure working with Integratto's very competent and exceptional entrepreneurs such as Yasu Kitahara, Akemi Miyamoto and Yasushi Ogawa. In 1999, Yasushi joined the Wharton MBA program and worked for a unit of my research center for two years. I am delighted to hear from him how much his experience at my center and Wharton so much contributed to Integratto's success.

I have learned that on December 10th Integratto will hold a large conference to celebrate its twentieth anniversary in Tokyo. My current health precludes me from attending the conference in person. I expect that this will be a superb event for the Japanese executives and managers who attend. The keynote speaker, Natsuno-san, like Ogawa-san is also a Wharton MBA, and I expect Natsuno-san will deliver a powerful and insightful speech reflecting his remarkable experience.

Since health precludes me from attending the conference let me use this letter to explain my view on Integratto's business. Integratto develops its software packages using my Discovery-Driven Planning (DDP) principles. Integratto's unique contribution is to use simulation technology to extend my original planning methodology to enrich uncertain business planning and decision making. This concept, simulation based planning, therefore fits very well with my DDP principles. I believe that as uncertainty of business circumstances increase, more and more companies will need Integratto's simulation based planning tools. This is exactly what Japanese companies have to use now to achieve significant growth again. I seriously think that use of simulation based planning tools would facilitate decision-making by Japanese senior executives as they consider important strategic investments. Increased investments, taking into account and hedging the uncertainty will contribute greatly to the success of current Japanese economic policy- Abenomics.

I expect that Integratto increasingly act as a bridge between the academic world and the business world, acting as a tool which connects the leading theories developed by scholars to the difficult but essential challenge managers face in making investment decisions under uncertainty. The methodology developed by Integratto is the tool that closes the academic-management practice gap

So I predict that the need for this very practical tool, based on a solid academic theory will even get stronger. From this viewpoint, it is a remarkable accomplishment that Integratto has sold more than 1,000 licenses of its simulation based business planning software packages, in Japan alone. This is very strong proof that Integratto is the front runner of this field, and building a world-class competence at attending to unmet needs of the many companies in the world wrestling with how to invest while controlling risk in uncertain times.

I am confident that Integratto will continue to grow and eventually become a world-class company which helps growth of companies all over the world.

My best wishes to Integratto in their decade of growth to come.



Sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Ian C. MacMillan', written in a cursive style.

Ian C. MacMillan



(表面レターの日本語訳)

2013年9月18日

インテグラートの創立20周年を、心からお祝いします。

遡ること1996年に、親友の早稲田大学大江建教授が私にインテグラートを紹介してくれました。それ以来、インテグラートの北原康富さん、宮本明美さんや小川康さんのように極めて有能かつ優秀な起業家達と一緒に仕事をしてきたことを本当に光栄に思います。1999年には、小川さんがペンシルバニア大学ウォートンスクールのMBAプログラムに入学し、2年間、私の研究センターに勤務してくれました。私の研究センターとウォートンスクールにおいて彼が経験したことが、インテグラートの成功に大きく寄与していることを聞き、嬉しく思います。

12月10日に、インテグラートが東京において20周年記念の大きなフォーラムを催すことを聞いています。私は、現在の健康状況によりその会議に出席することができません。このフォーラムに参加する日本の経営者やマネージャーにとって素晴らしいイベントとなることと思います。基調講演者の夏野さんもまた、小川さん同様にウォートンスクールMBAであり、彼の素晴らしい実績に基づく力強く洞察に満ちた講演となることを確信しています。

健康状況によりフォーラムに参加できませんので、インテグラートに対する私の考えをこのレターで説明させてください。インテグラートは、私の仮説指向計画法に基づくソフトウェアパッケージを開発しています。インテグラートが果たしている、他に類を見ない貢献は、私の元々の方法論を応用し、不確実性の高い事業計画と意思決定の質を高めるために、シミュレーション技術を活用していることです。それゆえ、シミュレーションを活用する計画立案手法、というこの概念は、私の仮説指向計画法の実践に大変ふさわしいのです。事業環境の不確実性が高まるにつれて、インテグラートのシミュレーションを活用する計画立案ツールを、より多くの企業が必要とすることを確信しています。まさしく、日本企業が、もう一度、飛躍的な成長を達成するために、今、使わなければならないのです。日本の企業トップが重要な戦略的投資を考える際に、シミュレーションを活用する計画立案ツールを使用することによって、彼らの意思決定を円滑に進めることになるだろうと、私は真剣に考えています。不確実性とその回避を考慮した投資の増加は、現在の日本経済の政策アベノミクスの成功にも大きく寄与するでしょう。

インテグラートは、経営学者によって開発された最先端の理論を、不確実性下の投資意思決定に際して、経営陣が直面する難しくも避けて通れない挑戦に役立てる役割を務め、学問と実務の世界の橋渡しとしての役割をますます担っていくだろうと期待しています。インテグラートによって開発された手法は、学問と経営実務の隔たりを補うツールです。

それゆえ、確かな学術理論に基づいた、このまさに実用的なツールに対する需要は、ますます強くなると私は予想しています。この観点から、インテグラートが、シミュレーションを活用する計画立案ソフトを日本国内だけでも1,000ライセンス以上販売していることは、注目すべき成果だと思います。これこそが、インテグラートがこの分野における先駆者であり、先行きが不透明な時代にリスクを管理する投資方法を必死で模索している世界中の多くの会社の、まだ満たされていない需要を見出し、世界レベルの競争力を作り上げている証明です。

インテグラートが成長し続け、世界中の会社の成長を助ける世界に知られた会社になると私は強く確信しています。インテグラートの今後の更なる成長の10年を心から祈念します。

イアン・C・マクミラン

(翻訳：インテグラート株式会社)

イアン・C・マクミラン教授について

新規事業、コーポレートベンチャリング、アントレプレナーシップ分野の第一人者。学術的な研究に加えて、メルク、マイクロソフト、シティバンク、GE、IBM、パナソニック、オリンパス、KPMG、HP、インテル等へのコンサルティング実績を持つ。南アフリカ大学、コロンビア大学、ニューヨーク大学を経て、1986年よりペンシルバニア大学ウォートンスクール教授。
主な著作に、「アントレプレナーの戦略思考技術」(2002年、ダイヤモンド社)、「コーポレートベンチャリング」(1994年、ダイヤモンド社)、「Discovery-Driven Growth」(2009年、Harvard Business School Press)等がある。